

★ その他

トラン・ブン・チャン副委員長

続きまして、その他といたしまして、部会ごとの時間内で質問できなかった方、順次発言をお願いします。

なお、部会のテーマとは別の内容でも結構ですので、その他、市の執行部に聞いてみたいことなどがありましたら、発言をお願いします。

35 番 飯田翔議員

35 番 宇都宮高等学校の飯田翔と申します。

先ほどのごみ問題の話なんですが、私は親の転勤で、いろんな地方を転々としていたのですが、ごみの分別については、宇都宮は、正直遅れていると思うんです。

例えば、ピンを色別に回収するというのは、日本全国で行われていますし、名古屋市のように、ごみの分別を厳しくしたら混乱が起きてしまったというのもあるのですが、日本は全体として比較的分別は厳しく、いろんな資源を生かせる方向に動いていると思うんですね。

その中で、例えば、栃木県のルールでごみを分別したら、東京ではちょっと危ないとかいう話もありますし、正直、ちょっとゆるいと思うんですが、その辺を厳しくする予定などはありますか。

トラン・ブン・チャン副委員長

ただいまの質問に対して、市の回答をお願いします。

石井孝男ごみ減量課長

委員長、ごみ減量課。

トラン・ブン・チャン副委員長

お願いします。

石井孝男ごみ減量課長

大変厳しいご質問でございまして、宇都宮市では、ごみの分別は5種10分別で行っております。それで、このうち、家庭から出るごみの中で、一番多いのは、その50%は「生ごみ」が占めております。この生ごみは、なかなか分別をしていただくのが難しいと考えています。

そうした中で、11.5%の「その他プラスチック製容器包装」というものがございます。大体、ペットボトルは分別していますが、ペットボトルを除いた、買い物の時のレジ袋もそうですし、ほとんどのものは「その他プラスチック」というものです。

この「その他プラスチック製容器包装」を、今年の3月に策定した宇都宮市一般廃棄物処理基本計画の中では、平成22年から分別しようということにしております。大体、「その他プラスチック製容器包装」は11.5%ですが、嵩(かさ)、容量でいうと約40%、ごみの袋の4割をかさむというものでございますので、これを平成22年から、私どもとしては分別して、資源化してまいりたいと考えています。

それに併せまして、現在、牛乳パックは拠点回収を実施しています。例えば、地区センターなどに持って行っていただいて、回収しています。また、白色トレイについても拠点回収をしているのですが、市民の皆さまが拠点まで持って行くのが、なかなか大変だということで、回収率が上がらないという状況にあります。

この基本計画の中でも、22年度からはステーション回収にして、さらに資源化を進めていこうと考えていますので、5種10分別が5種13分別くらいになるようかと思っておりますが、私どもの方では、そのような形で進めていきたいと考えています。

ビンの選別についてですが、確かに宇都宮市では、色がついている物も、ついていない物も全て同じように集めていただいておりますが、クリーンパーク茂原に「リサイクルプラザ」という施設がございまして、ビン・缶等が持ち込まれます。実は、ビン・缶等は機械で自動的に選別されまして、色着きのビン、緑色、白色、茶色、その他とか自動分別されまして、それらを資源化している状況ですので、皆様に分別していただくなくても機械で分別を行っているというところでございます。

トラン・ブン・チャン副委員長

ありがとうございました。

他に質問はありませんか。

3番 高瀬みなみ議員

3番 姿川中学校の高瀬みなみです。

国際交流化についてなのですが、今年の海外体験学習の派遣生が23人だったということですが、一昨年の資料を見てみると、約40人が派遣されています。派遣人数が減っていますが、どういうことなのか教えていただけませんか。

トラン・ブン・チャン副委員長

ただいまの質問に対しまして、市の回答をお願いします。

小森健久秘書課長

委員長，秘書課。

トラン・ブン・チャン副委員長

お願いします。

小森健久秘書課長

ただいま，派遣生について 23 名，一昨年前の年が 40 名。これは，相手都市と協議をする中で，何名程度を受け入れられるかというところがございます。相手の能力に応じた数を，こちらから送っているという状況です。

トラン・ブン・チャン副委員長

ありがとうございました。

他に質問はございませんか。

11 番 松本千晶議員

11 番 星が丘中学校の松本千晶です。

いじめ問題について質問します。先ほどの回答で環境を変えるなどがあり，担任ではなく学年全体などでいじめを未然に防ぐ対策を取っていくとありましたが，現に現場では，小さな嫌がらせなどをを受けて嫌になっている子や，アンケートを実施してもアンケートに本音を書けない子などがいると思います。

また，アンケートなどで実際書いたとしても，担任などが対策を取ってくれない場合などが現状ではあると思います。

市として，教員としての対応，指示，指導などはどうしていますか。ご回答よろしくお願いします。

トラン・ブン・チャン副委員長

ただいまありました質問に対して，市の回答をお願いします。

半田均学校教育課長

委員長，学校教育課。

トラン・ブン・チャン副委員長

お願いします。

半田均学校教育課長

具体的にご指摘いただきまして、大変ありがとうございます。

子どもたち、生徒たちのそういった気持ちを、先生が一つひとつ細かく汲み取っていくということは、何よりも大切なことだと思います。

先生方の研修会についても、子どもたちの人権の問題と、いじめの問題について、年間に何回か、継続的に研修など実施しておりますので、今、お話しいただいたようなことも、研修会の中で十分に取り上げながら、児童生徒の中にはですね、先生に伝えたくても、なかなか伝えることができないという生徒さんもいるということも十分認識し、きめ細かに子どもたちの心を汲み取っていくように、さらに先生方の研修会、あるいは学校教育課には指導主任が何人かおりますので、指導主任が、学校を訪問しながら、そのようなことについて、十分に学校で対応できるような体制に万全を期してまいりたいと思います。

是非、皆さん方も学校に戻りましたら、先生方と一緒に、いじめ問題を解決していこうということで、先生と生徒さんが一緒になって、学校を良くするという事で努めていただければ、大変ありがたいと思っております。よろしくお願いします。

トラン・ブン・チャン副委員長

ありがとうございました。